

支 部 だ よ り

札幌支部

支部長/布川 耕吉

令和2年度の札幌支部会員校数は、専修学校73校、各種学校3校の合計76校です。

例年、札幌支部では「総会開催」「体育事業」「広報事業」「研修事業」「進路探求学習オリエンテーリング事業」「行政への意見反映」「協賛事業(緑の募金・さっぽろライラックまつり)」に協力実施してきました。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、「総会」は書面決議、「研修事業」「体育事業」「協賛事業」は中止となりました。長年実施してきた事業なだけに、残念な想いでいっぱいです。

そうしたなか、「広報事業」は7月17日に北専各連がNPO法人と共催する札幌会場での進路相談会を主管し、生徒、父兄、教員合わせて563名の参加をいただきました。大学も参加し、進学マネー講座も開催されるなど、情報提供の場として大変有益な相談会でした。

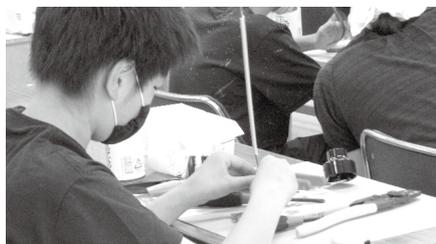
また、支部広報誌Plotは2月に発行配布されています。

「進路探求学習オリエンテーリング事業」は、今年度から市内



中学校の全学年の生徒を対象とし、開催期間も例年より延長し8月8日から本年1月14日までの期間で開催されました。新型コロナウイルスの影響もありましたが、各校で感染対策を講じる中、802名の中学生と372名の保護者が専門学校を訪れました。会員校の皆様の協力のもと、参加中学生の職業観を形成するのに大きな役割を果たすことができました。

「行政への意見反映」としては、11月9日に札幌市議団への政策要望懇談会を実施するとともに、札幌市教育委員会との協議を行い、行政へ専修学校の意見を伝えました。



会員校の皆様におかれましても、新型コロナウイルス対策のため、それぞれの場所で奮闘されていると存じます。どうぞ、感染防止策をご徹底のうえ、お元気で過ごされたいと祈念しております。いち早い事態の収束を心から願うとともに、札幌支部も微力ですが、皆様の知恵を借りながらできることを確実に実施していきたいと考えています。

令和2年度の札幌支部会員校数は、専修学校73校、各種学校3校の合計76校です。

函館支部

支部長/奥 ひろみ

日頃より函館支部にたいしまして、ご支援、ご指導を賜り厚くお礼申し上げます。

本年も変わらぬご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染拡大の脅威に触れて1年が経過しました。昨年度末から国家試験の受験、卒業式や入学式挙行の可否、遠隔授業や分散登校への切り替えなど次々と判断を迫られる事態となりました。教育課程の遂行において各校のご苦勞をお察しいたします。

観光への依存度が高い函館市では経済への打撃も大きく、落込み回復は想像もできない状況にあります。この事態を予測していたかのようにスタートした修学支援新制度ですが、函館の各校2~3割の学生が対象となっている現状から、次年度は増々需要が高まると予想されます。しかし、コロナ禍で急ぎ実施した遠隔授業の取組みは、様々な可能性を示唆するものでした。新しい生活様式では学生募集においてもリモートを中心とした活動への転換が急務となり、手探りで取組んだ学校も多かったのではないのでしょうか。

函館支部では、昨年度末に企画した『函館・専門学校巡りバスツアー』が中止となり急遽広報紙の発行に代替しましたが、今年度末も同様に中止の判断をいたしました。代替案として『バーチャル進学ガイダンス』を提案いただき、現在は各校がWEBページ制作の資料作製、動画撮影をしているところです。加盟校が各々の活動をするなかで、支部事業の不慣れな企画にご協力いただけることに心より感謝申し上げます。

このように計画の中止が続いたことで次年度の課題となりまして、新企画について協議を重ねていきたいと考えております。

コロナ禍の終息が予測できない状況のなかでも教育に影響せず、地域社会へ有能な人材を輩出できる専門教育機関として加盟校共々尽力して参りますので、一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

空知支部

支部長/齋木 修二

日ごろより当支部の運営におきまして多大なご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

北海道による学校基本調査によると、35年前の昭和60年当時で高校総数が337校だったものが、令和元年には277校まで減少しています。

学校数だけの数字を見るとさほど大きなものとは感じづらいですが、生徒数をみると約237,400名だったものが、なんと123,112名まで減っており、驚くばかりです。そんな中で専修学校の専門課程を見てみると、昭和60年で286校だったものが令和元年には393校。学生数で見ると22,968名が24,958名に伸びていま

す。高校生の人数が減少しているさまを考えると、この数字はいかに専門学校への期待度が高まっているかということなのです。

近年は空知地方の過疎化も進み、高校生も随分と減少しました。ここ10年間の空知地方の推移を調べると平成21年の全日制高校数は24校、生徒数は8,750名でしたが、令和元年には19校、6,131名になっています。生徒が減ったということは第一に学級数が大きく減ります。学級数が減るとということは教員数も大きく減ることです。そうすると高校で学べる内容も減ってしまい、連鎖的に地域の衰退につながってしまいます。我々教育業界は、より一層地域と連携をとった活動が求められています。世界を震撼させている新型コロナウイルスの影響もまだまだ大きな影を残していますが、我々は決して負けてはいけないということです。空知地方は農業、林業、商工業など大きな潜在力を秘めた地域です。この地の未来をけん引する人材を育てていくことが我々の使命です。

旭川支部

支部長/開田 仁司

日頃より旭川支部に対しまして、一方なるご支援、ご厚情を賜りますことを衷心より感謝申し上げます。

さて、旭川支部も他支部の皆様と変わらず、新型コロナの影響を受け、昨年度は支部としての活動を実施する状況ではありませんでしたが、次世代人材職業体験を受講していただいた中学校の生徒の数が例年であれば札幌近郊へ赴く学校が旭川近郊に集まり、大変多くの生徒の受け入れを旭川支部の会員校で行いました。旭川支部の会員校において札幌方面で実施していた体験を実施する事は、かなりの負担をしている状況ですが、各校とも多大な協力を頂いて、目的遂行のために尽力いただいております。新年度も同様に、中学校の受け入れを考えて行く事態になりそうですので、あまり各校の負担増とならないようにとの思いはありますが、出来るだけ多くの中学校の希望をかなえられるように配慮したいと考えております。

また、2021年度の支部の活動については、未だに新型コロナの影響があり、具体的な活動についての案はまだ決まってはいませんが、出来るだけ多くの会員校が参加できる形でのイベント等を実施すべく尽力していく所存でありますので、今後も活動にご協力を賜りますようお願いいたします。

最後になりますが、次年度も高校生への啓発等での各支部様のご活躍をご祈念申し上げます。

北見支部

支部長/柏尾 典秀

日頃より北見支部の運営に多大なるご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

本年も変わらぬご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

現在、未だ新型コロナウイルス感染症の終息の兆しが見えない中様々な、社会活動が制限されると同時に、コロナ禍に対応しうる急激な変化も求められています。我が国をはじめ、世界が近年経験したことのない状況において、各企業におけるテレワークや、各学校におけるオンライン授業の実施等々、各業界において様々な知恵を絞りながら対応されていると思います。

■スポーツフェスティバルの中止■

さて、専修学校生のスポーツの祭典「令和2年度 北専各連北見支部スポーツフェスティバル」を5月15日、道立北見体育センターにて開催を予定しておりました。この祭典は、職業教育に取り組む専修学校生が、普段とは違う環境の中で、専修学校相互の交流とスポーツを通して協調性や信頼感の醸成を目的としており、学生生徒も楽しみにしている行事でもありました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言において、支部として残念ではありましたが中止することといたしました。

■次世代人材職業体験講座の利用増加■

このような状況の中、平成21年度から専修学校で実施されている、道内の中学生を対象とした職業体験「次世代人材職業体験推進事業」ですが、将来の夢の実現に向けて、中学生に望ましい職業観や勤労観の育成のために、職業体験の場を提供するものですが、各中学校でも多くの行事が中止になる中、支部管内での感染状況が少ないこともあり、北見美容専門学校、北見情報ビジネス専門学校、オホーツク社会福祉専門学校の3校で、中学校数15校、講座数35講座、中学生



の総数は268名と過去最高と思われる利用がありました。(※1月、2月は予定数として計上)

実施後のアンケート調査の分析からも、多くの生徒が、自分の興味・関心に応じて様々な分野の職業を体験し、事前学習のもとに進路探究学習のねらいを達成できたと応えています。私達も個々の発達の段階を踏まえたキャリア教育を実施することができ、それぞれの専修学校の特色を生かした職業体験講座が提供できたのではないかと思います。

支部といたしましても、本年も引き続き専修学校生の学びを最優先に、なお一層の研鑽に努めていきたいと思っておりますので、今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、コロナ禍が一日でも早く終息し、穏やかな学校生活が戻ることを願うとともに、皆様にとりまして実り多き年になりますよう祈念いたします。



道東支部

支部長/北上 俊幸

日頃より道東支部に対しまして多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年に元号が変わり、祝賀ムードから一変した今年の春は国全体が自粛モードとなり、コロナという感染症対策に追われた1年となりました。3密を避けるために中止となった行事や、やり方を試行錯誤するなどして行われた行事もあります。

新型コロナが収束するまでは、新生活様式で対策に取り組みながらも可能な部分は実施していき、充実した学校生活を送ることができるように、これからも生徒1人1人の健康観察、マスクの着用を徹底していききたいと思います。

今年度の道東支部の活動であります。3月「北専各連進路相談会」は中止。5月、加盟校共同で学生応募のポスターを作製、12月に予定されていた研修会は中止ということになりました。

各校の活動としまして、釧路孝仁会看護専門学校は、開設8年目を迎え、この3月には5回目の卒業生37名が看護師への第1歩を踏み出します。

くしろせんもん学校では毎年秋に地域の方々を招いた学校祭を開催していますが、今年はコロナ過で中止とし、代案として全校生徒による学校近隣の昭和地区における地域清掃を町内会と皆さんと行いました。また、2か月間という製作期間を設け長さ10mの垂れ幕4本を作製し、校舎に掲示し地域に向けて前向きメッセージを発信しました。

釧路理容美容専門学校は7月にフォトコンテスト、9月は無観客での学校祭を開催し、10月に美容学生ワイディングオンラインバトルへの参加、11月には2年生のテーブルマナー講習会を行いました。

胆振日高支部

支部長/澤田 真奈美

日頃より胆振日高支部の運営に多大なるご支援を賜りますこと心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るい、我が国でも「緊急事態宣言」区域が拡大され日本経済が低迷している昨今、我々が今後どの様にして専修学校として人材育成を継続するかを急務に検討する必要が出て参りました。

併せて日本の人口減少の速度が益々上がる中、地方における人口減少は更に猛スピードで人口減少に歯止めをかけることなく進み、市町村の経済に大打撃を与えているのが顕著となりました。そこで今日を向けるべきは、どのようにして専修学校が地方で生き残りをかけて時代の流れに合わせて変化することが出来るかという事です。

今、社会では何が起きているのか、そして何が必要かということを追及していきますと、最終的には人材育成こそが地域社会、そして日本の経済を救う最も重要な救世主となることであると確信しております。現在、全日・定時制高校の卒業者は年間100万人余りで、うち17万人余りが専門学校に進学をし、地域を支える仕事に就いています。

私どもの使命は、このような大きな時代の変わり目の最中に於いても社会の変化に適応できる人材を育成することを通して日本社会に貢献することであると確信しております。

また、現在日本政府は諸外国に対しての出入国を厳しく制限している状況ではありますが、帰国出来ずに日本に留まっている多くの留学生の受け入れを率先し、留学生が地域社会とも深いつながりを持ち、日本人と共存することの出来る人材育成を意識した教育機関となるよう努めることも、この時代に於いて重要なことであると思えます。

今年も、支部会員校の皆様のお力を賜りながら、専修学校各種学校が社会より信頼される教育機関として持続できるための礎を地方から邁進して参りたく存じますので、一層のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

| | |
|-------------------------|---|
| 令和3年度北専各連通常総会 | 令和3年5月31日(月) 13時 札幌ガーデンパレス 2階「白鳥」 |
| 第63回北海道私立専修学校各種学校教育研修大会 | 令和3年9月14日(火) 13時30分 札幌ガーデンパレス 2階「丹頂」 |

会員校の動き

- 【入会】 ■ 岩谷学園ひがし北海道日本語学校
- 【入会】 ■ 札幌看護医療専門学校
- 【退会】 ■ 専門学校札幌ホテル・ウェディングカレッジ
- 【退会】 ■ 北海道メディカルスポーツ専門学校

